

ジェネリック医薬品の使用状況について (令和元年10月診療分)

令和2年5月作成



背景・目的

- 協会けんぽ加入者ベースの令和元年10月診療分の集計で、奈良県におけるジェネリック医薬品使用割合は、全国平均77.6%に対し、71.6%（全国46位）とかなり低迷している状況にある。
- 県全体としてジェネリック医薬品の使用促進が遅れている状況であり、全体的な底上げが必要な状況ではあるが、ジェネリック医薬品に関する基礎的な分析を行うことにより、特に弱点である部分を把握することを目的とする。

データの注意点

- 協会けんぽ加入者における令和元年10月診療分の医科、DPC、調剤レセプトを対象とする。DPCについてはコーディングデータを対象とする。
- 地域別の集計は、医療機関および薬局の所在地に基づく。
- 数量は、薬価基準告示上の規格単位毎に数えたもの。ただし、経腸成分栄養剤、特殊ミルク製剤、生薬、漢方を除く。
- ジェネリック医薬品使用割合は、数量ベース新指標にて算出。 $\text{後発品数量} \div (\text{後発のある先発品数量} + \text{後発品数量})$
- 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報（令和元年12月13日適用）」による。

用語の説明

- 本資料では「ジェネリック医薬品」を「Ge」と表記する。
- 影響度は偏差値50からの差分が、県全体のジェネリック医薬品使用割合に与える影響を示す。例えば、影響度が-1.0ならば、当該指標が全国平均になった場合（二次医療圏別割合の場合は県平均になった場合）に、県全体のジェネリック割合が1.0ポイント引き上がることを示す。

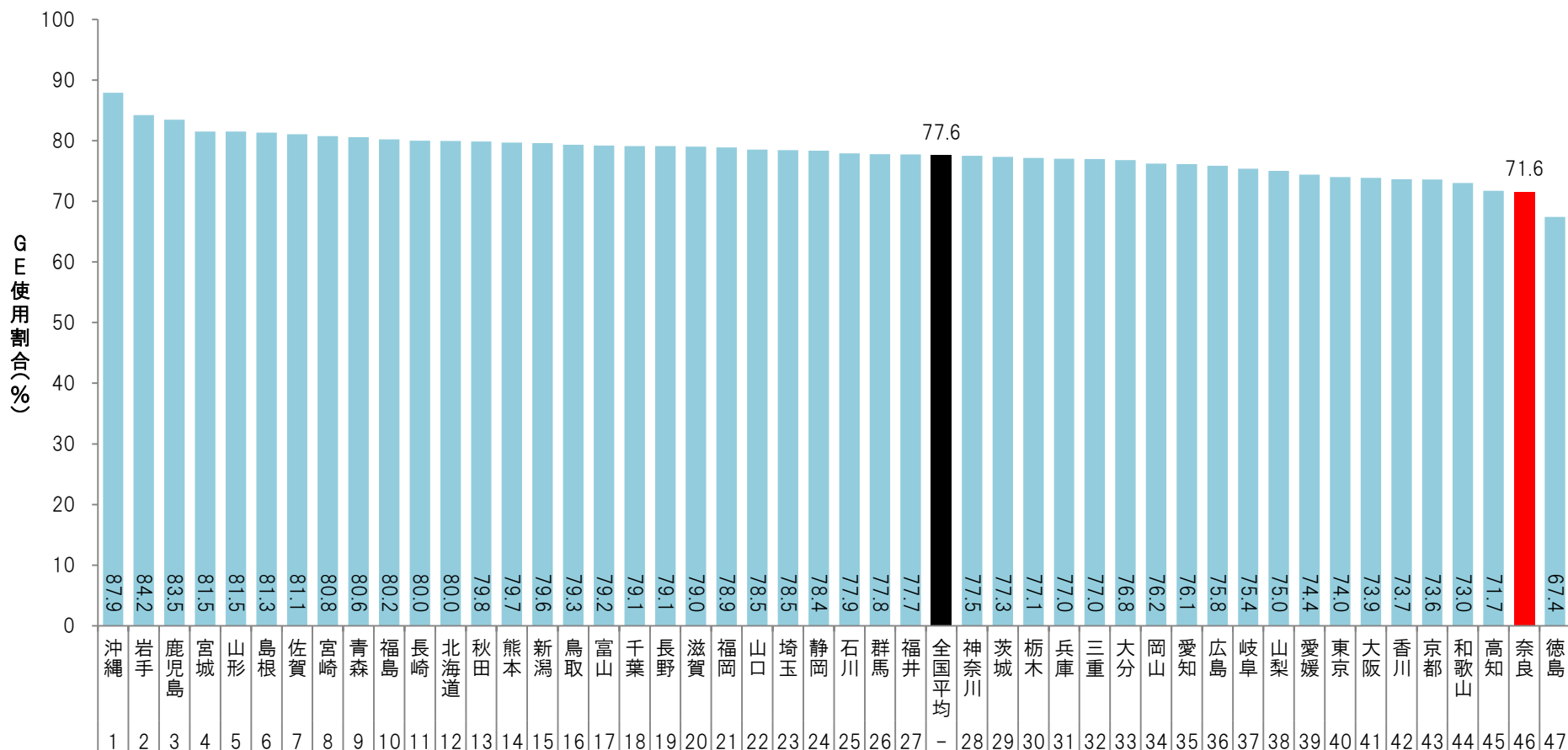
奈良県における傾向①

- 使用割合は**71.6%**で**全国46位**。(令和元年10月診療分)
- 二次医療圏別では**中和地区**の影響度が -0.78 と最も引下げ方向に働いており、次いで**東和地区**の -0.64 となっている。
- 「院内処方（病院や診療所内）」と「院外処方（調剤薬局）」に分けると、**院内処方でのGe使用割合が特に低く**、下げ方向への影響度が -3.72 と大きい。
- 特に、**病院の外来診療におけるGe使用割合**の影響度が -2.52 と大きい。
- 院内処方におけるGe使用割合が低いにも関わらず、**院内処方率が全国で3番目に高い**ことも、使用割合が低いことの要因の1つと考えられる。
- **院外処方**のGe使用割合は、全国平均は下回っているものの院内処方に比べると使用割合は高く、調剤薬局で処方される場合はGeの使用割合が比較的高いことが分かる。

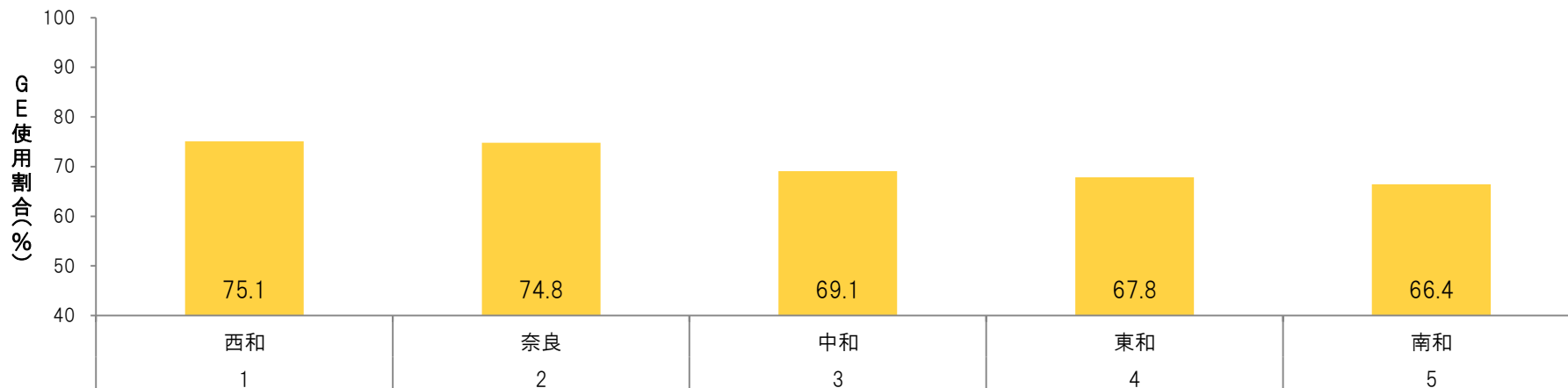
奈良県における傾向②

- 薬効別では循環器官用薬の影響度が大きく、影響度 -2.10 となっている。
- 年代別では、協会全体では若年層の使用割合が低いことが課題であるが、奈良県では高齢者の使用割合が低く、高齢になるほど全国平均との乖離幅が大きい。60～74歳の影響度は -2.75 となっている。
- 公費対象者のGe使用割合は、全国的にもやや低い傾向だが、全国平均67.5%に対し、奈良は59.0%となっており、特に東和地域、中和地域、南和地域の使用率が低い。

支部別GE使用割合／全体（令和元年10月診療分）



奈良支部／二次医療圏別GE使用割合／全体



影響度

+0.78

+0.84

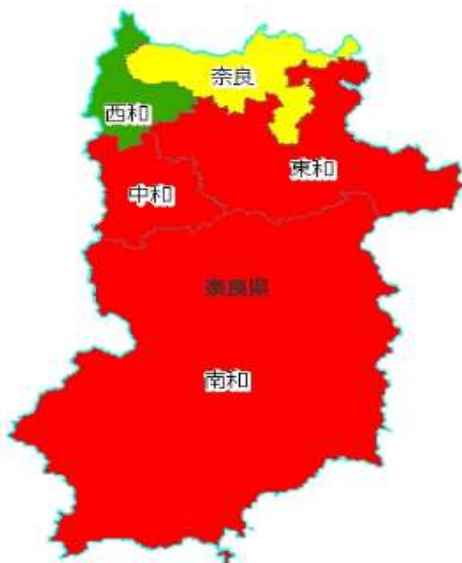
-0.78

-0.64

-0.19

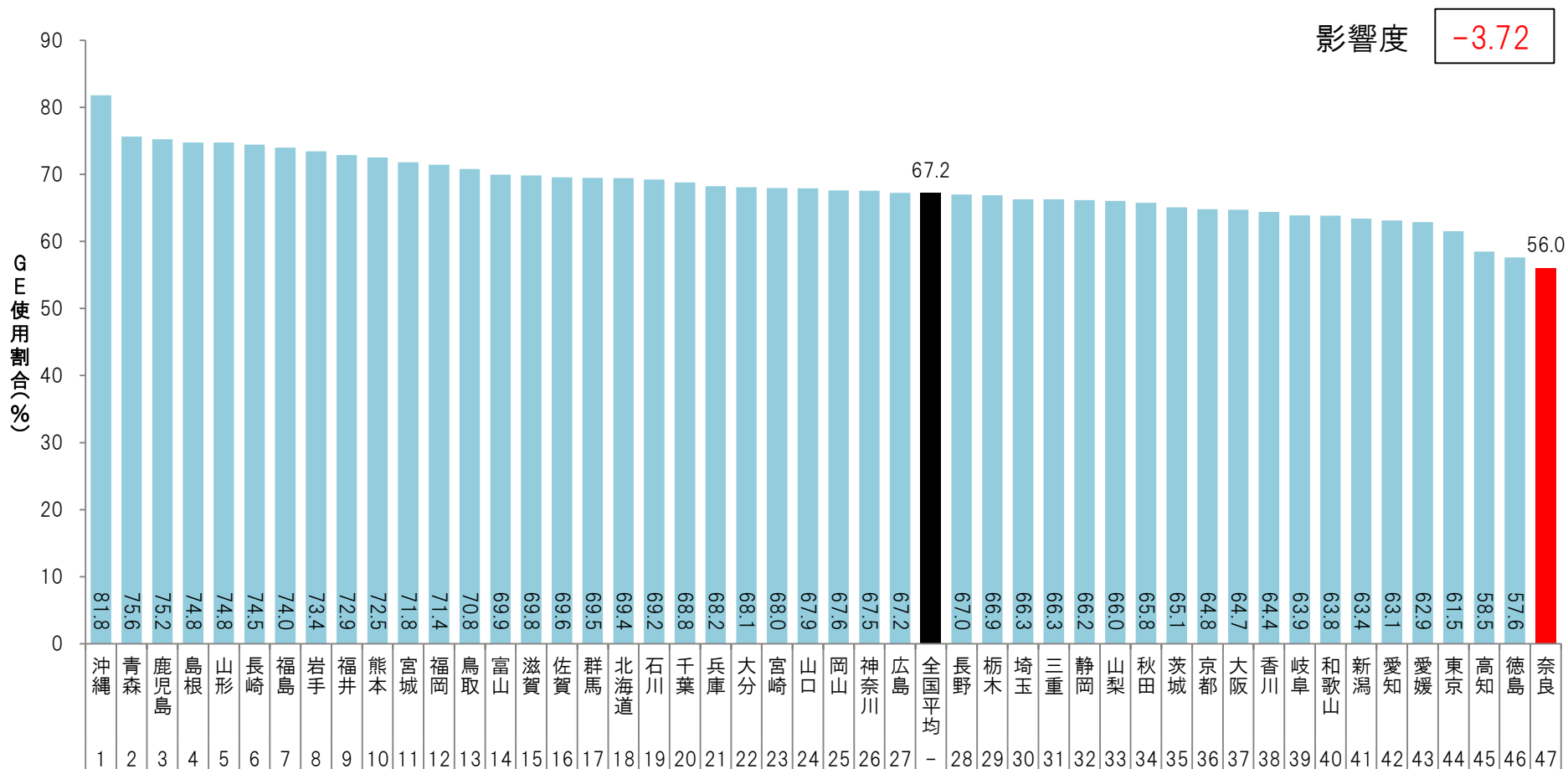
《塗り分け基準》

以上	未満	色
75		緑
70	75	黄
	70	赤

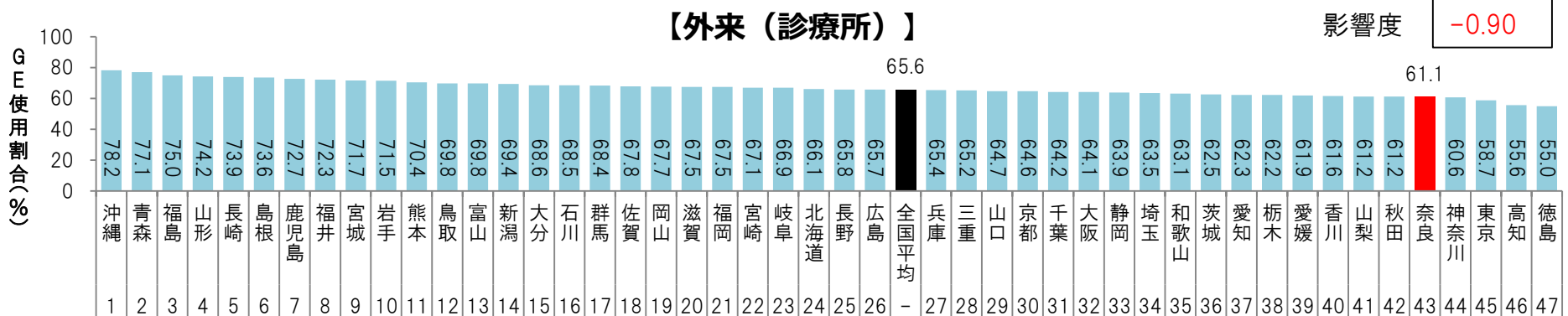
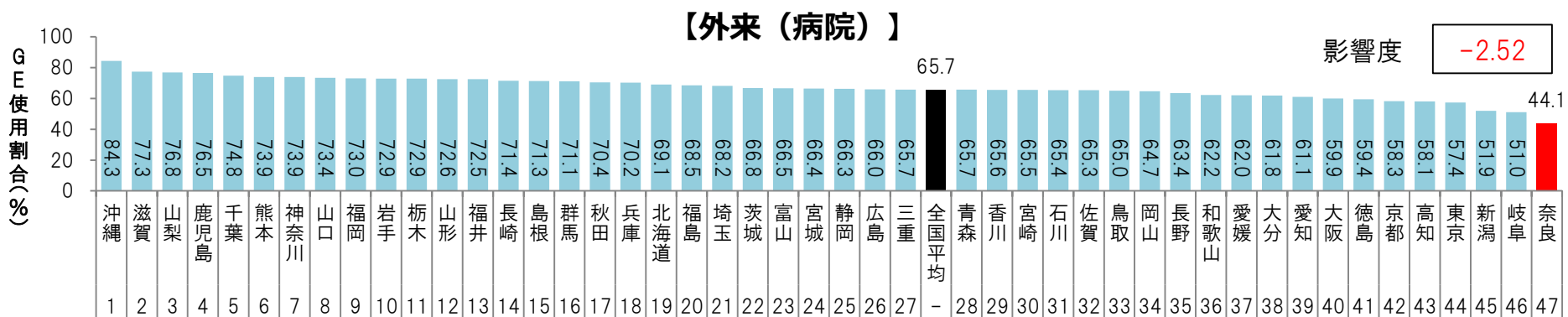
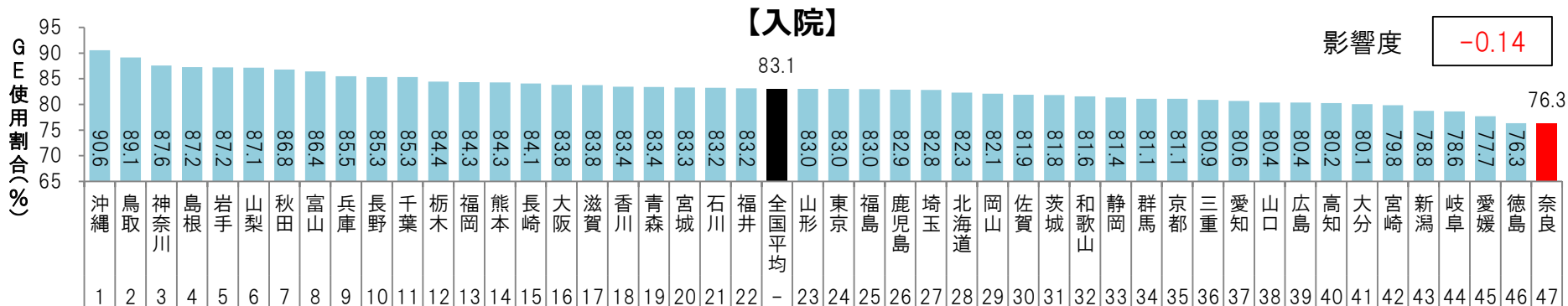


※二次医療圏・・・地理・交通・人口・病院の配置などを考慮して設定された、病院などの医療提供体制を整備する際の基本的な地域単位のこと。現在、奈良県には、「奈良」「西和」「東和」「中和」「南和」の5つの「二次医療圏」がある。

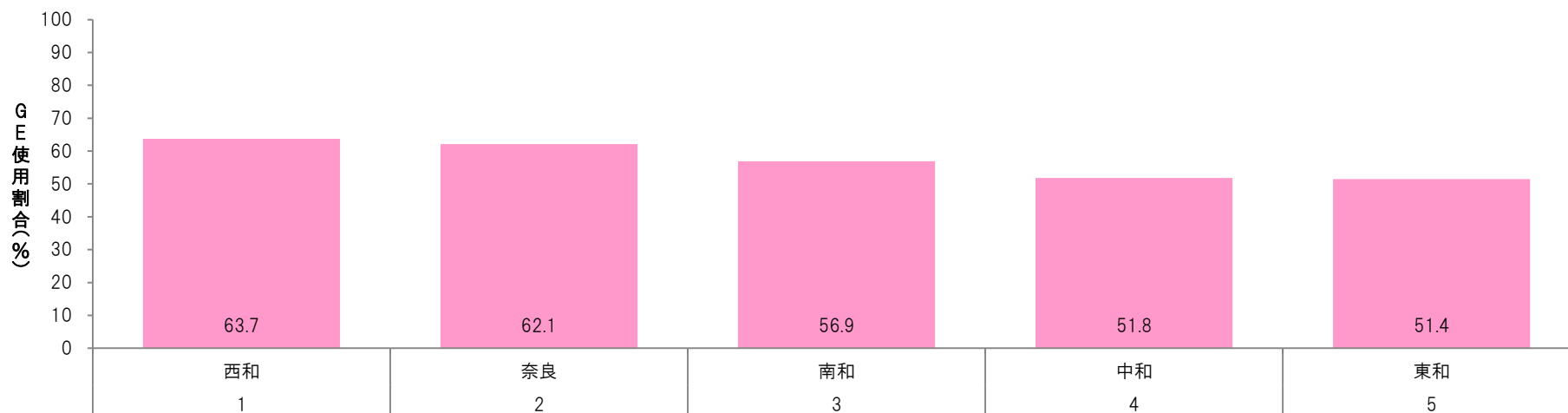
支部別GE使用割合／院内



支部別GE使用割合／院内処方



奈良支部／二次医療圏別GE使用割合／院内



影響度

+0.35

+0.47

+0.01

-0.50

-0.34

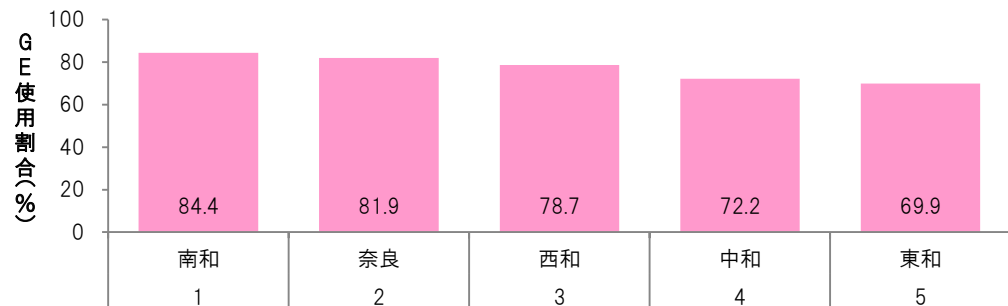


《塗り分け基準》

以上	未満	色
60		緑
55	60	黄
	55	赤

奈良支部／二次医療圏別GE使用割合／院内処方

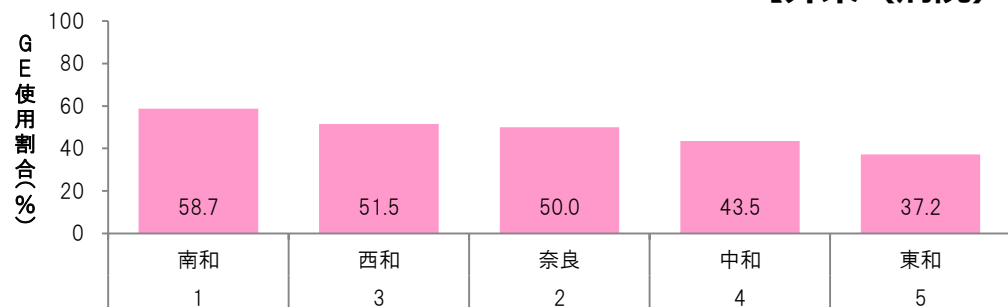
【入院】



《塗り分け基準》

以上	未満	色
80		■
75	80	■
70	75	■
	70	■

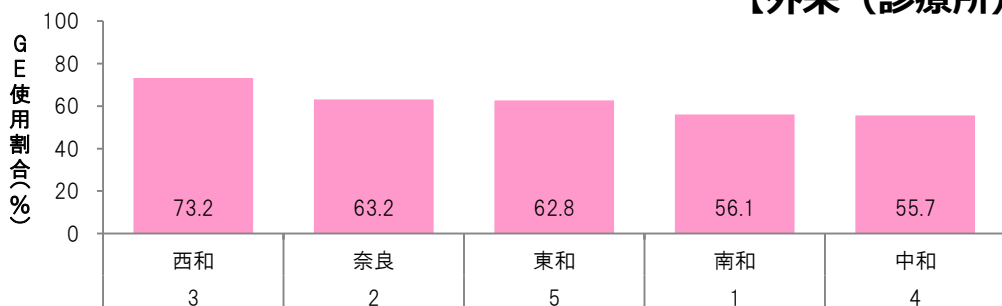
【外来（病院）】



《塗り分け基準》

以上	未満	色
55		■
50.1	55	■
45.1	50	■
40.1	45	■
	40	■

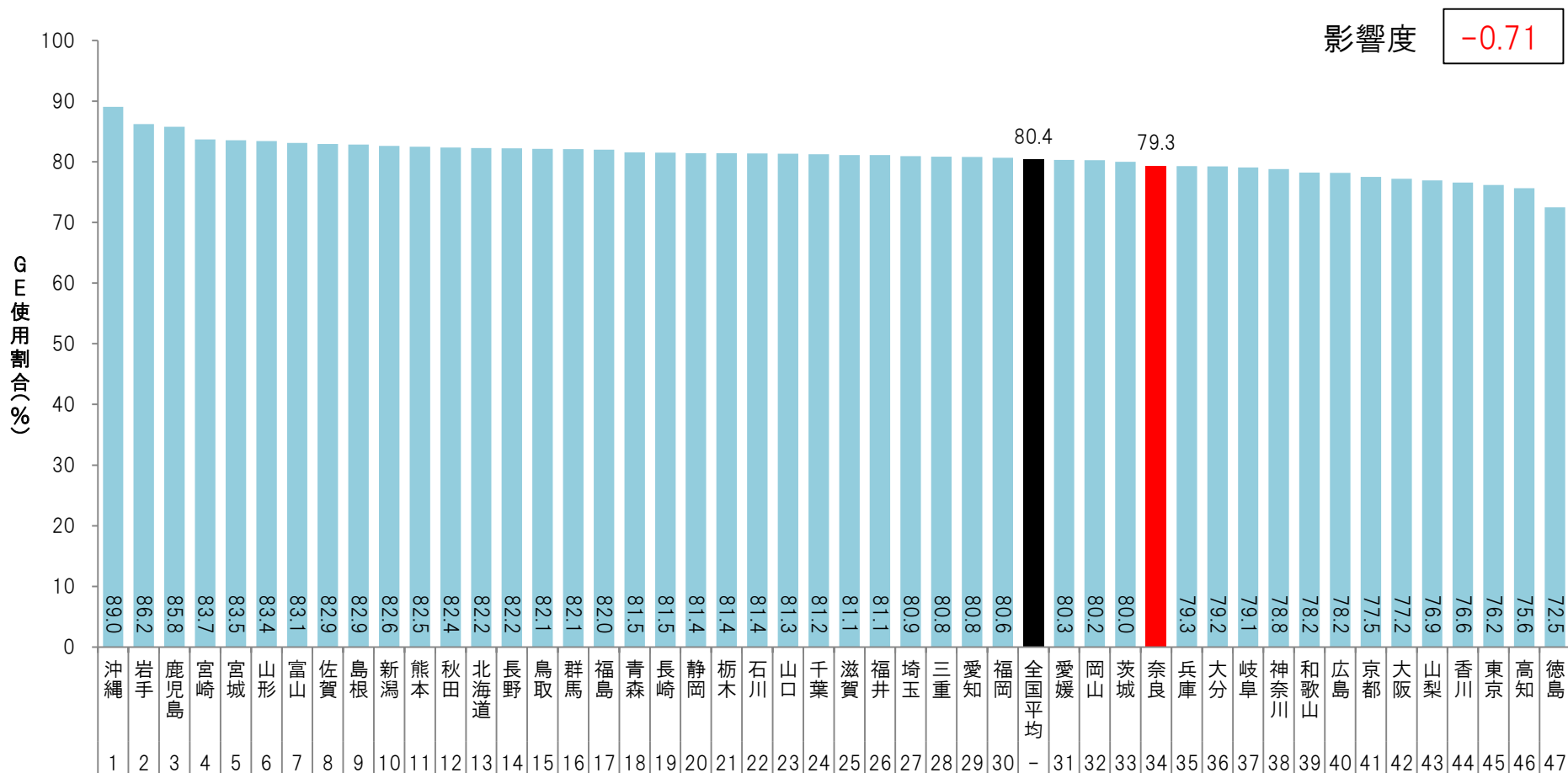
【外来（診療所）】



《塗り分け基準》

以上	未満	色
65		■
60	65	■
	60	■

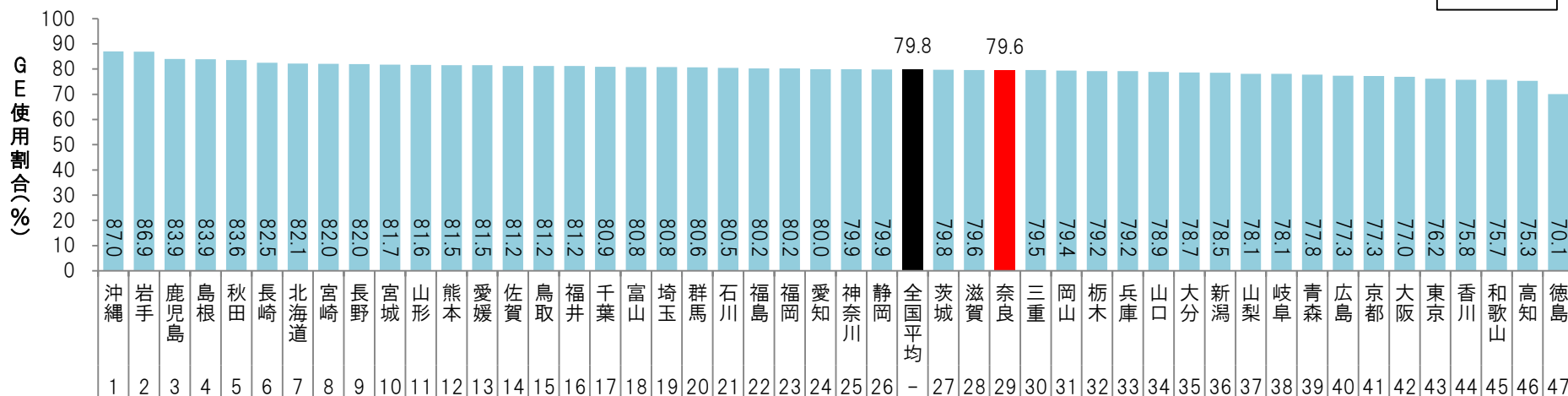
支部別GE使用割合／院外処方



支部別GE使用割合／院外処方

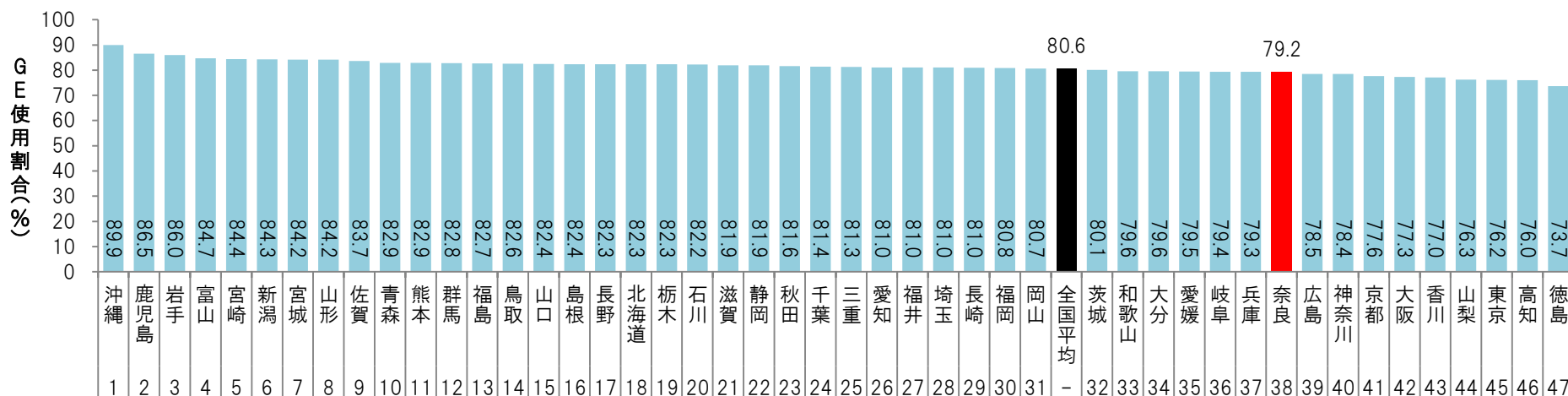
【処方元：病院】

影響度 -0.05

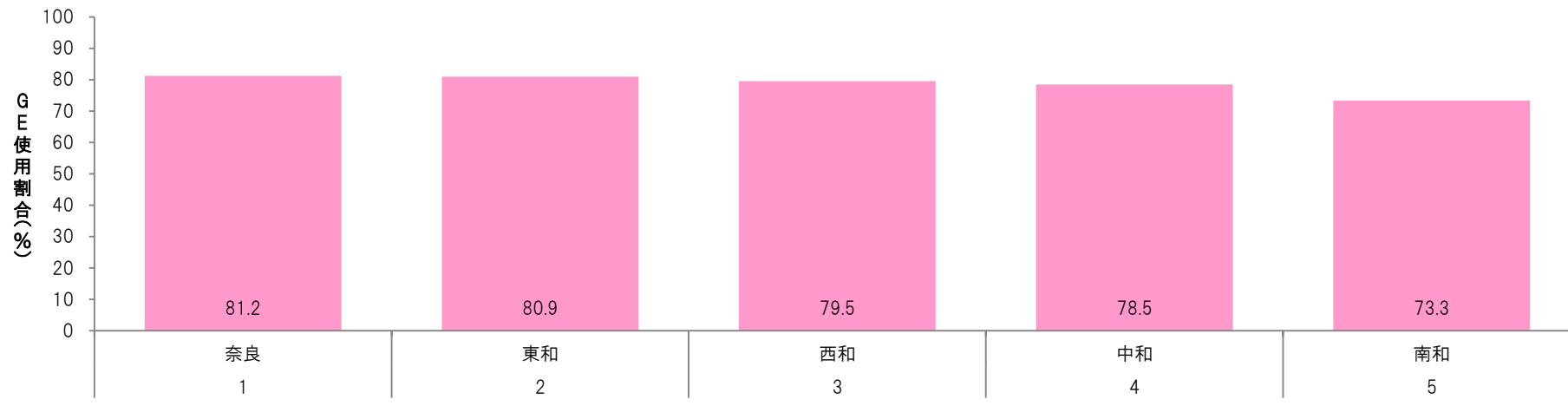


【処方元：診療所】

影響度 -0.66



奈良支部／二次医療圏別GE使用割合／院外処方



影響度

+0.09

+0.05

+0.00

-0.07

-0.07

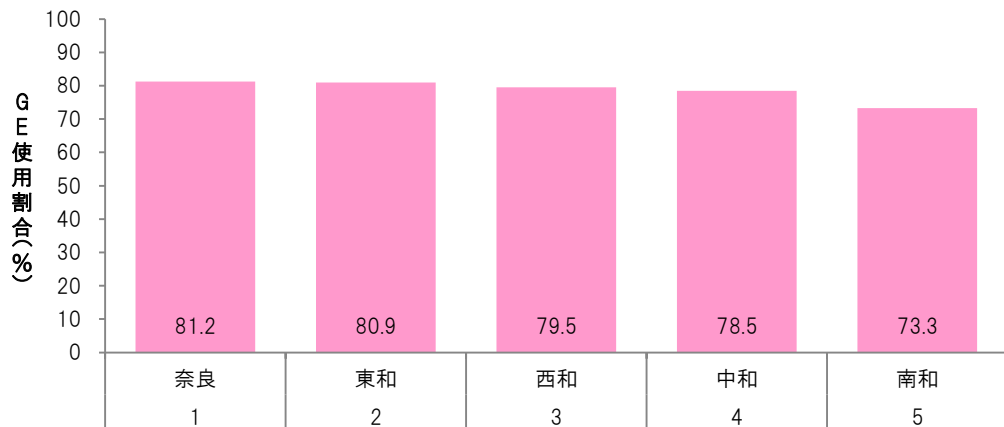


《塗り分け基準》

以上	未満	色
80		緑
75	80	黄
	75	赤

奈良支部／二次医療圏別GE使用割合／院外処方

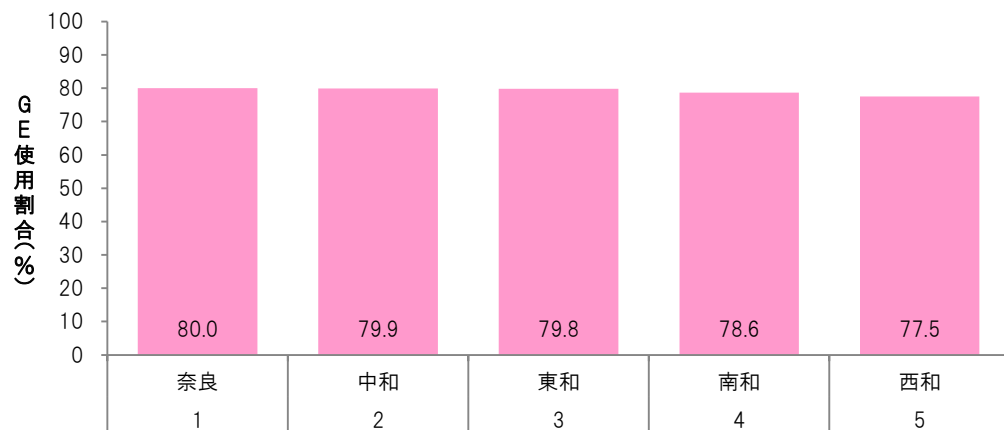
【処方元：病院】



《塗り分け基準》

以上	未満	色
80		緑
75	80	黄
	75	赤

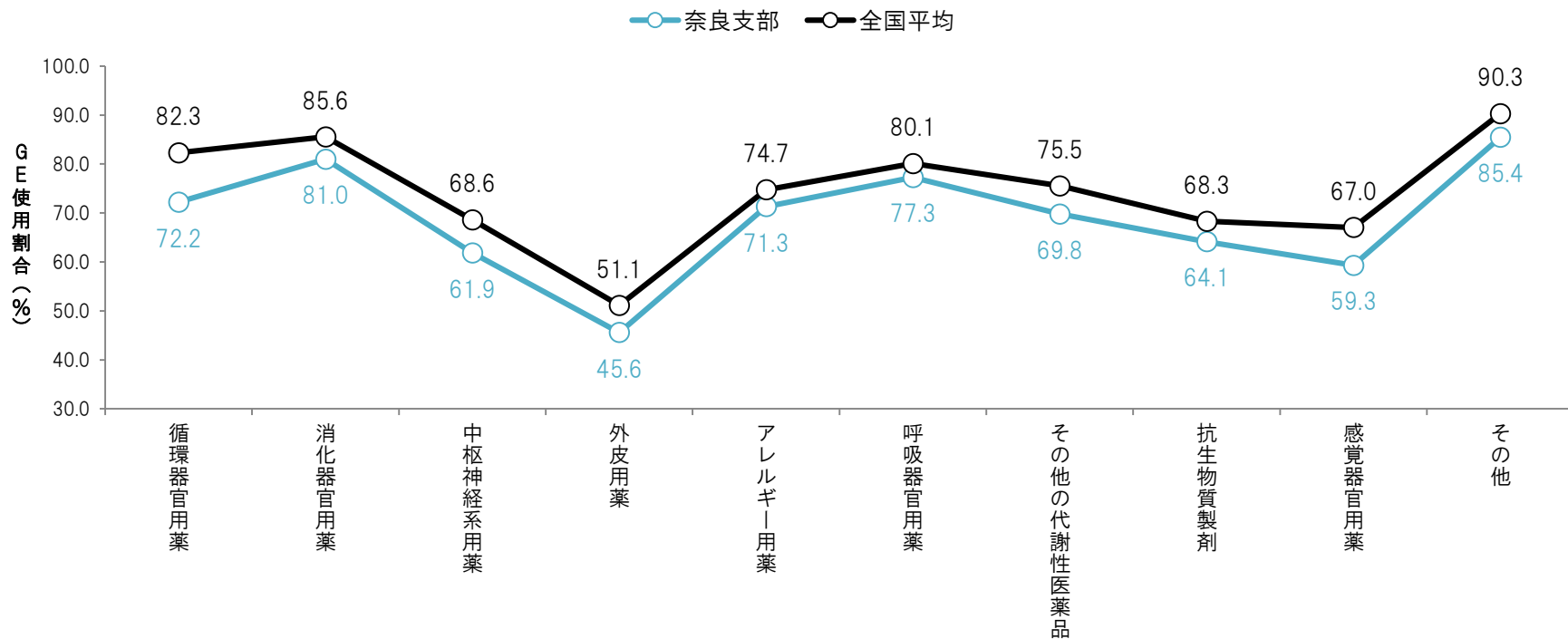
【処方元：診療所】



《塗り分け基準》

以上	未満	色
80		緑
79	80	黄緑
78	79	黄
	78	赤

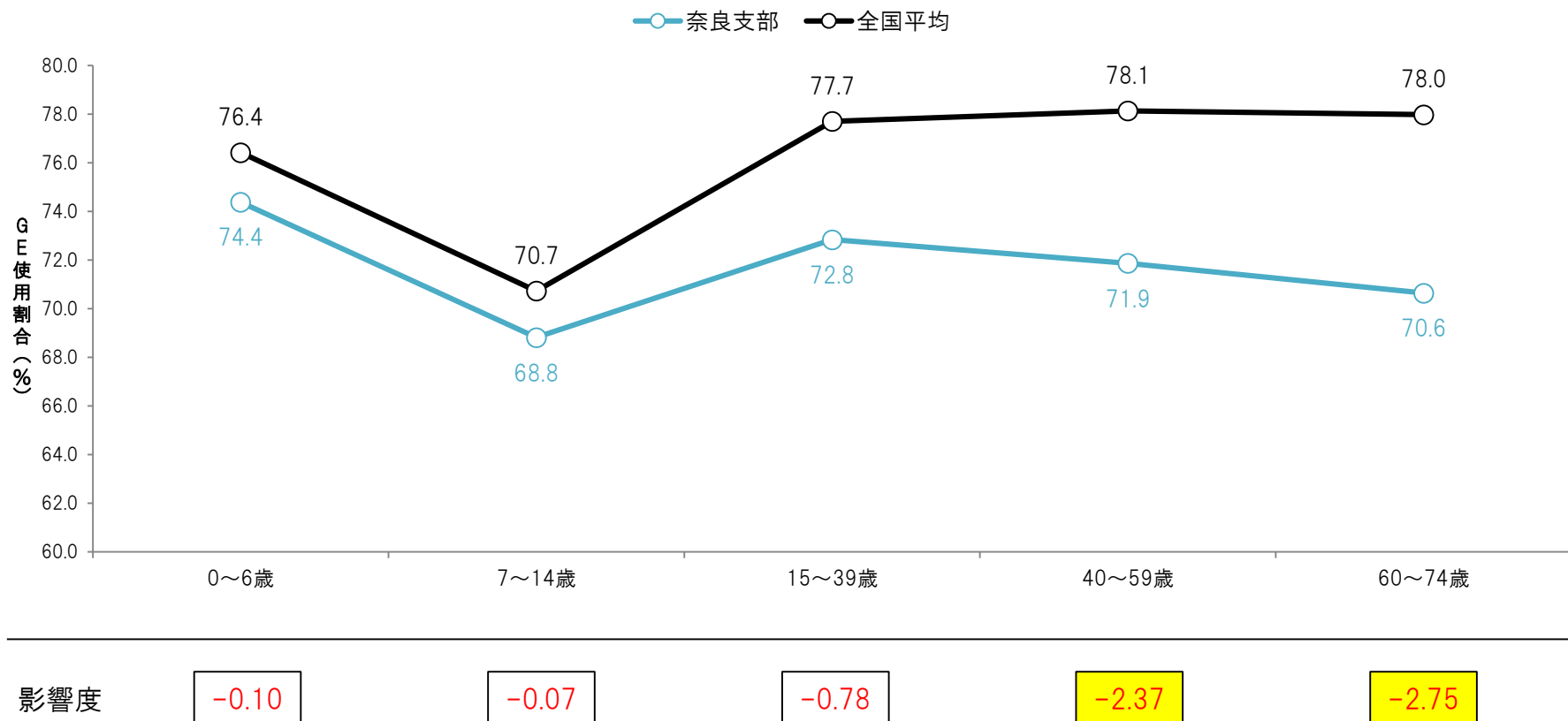
奈良支部／薬効別GE使用割合



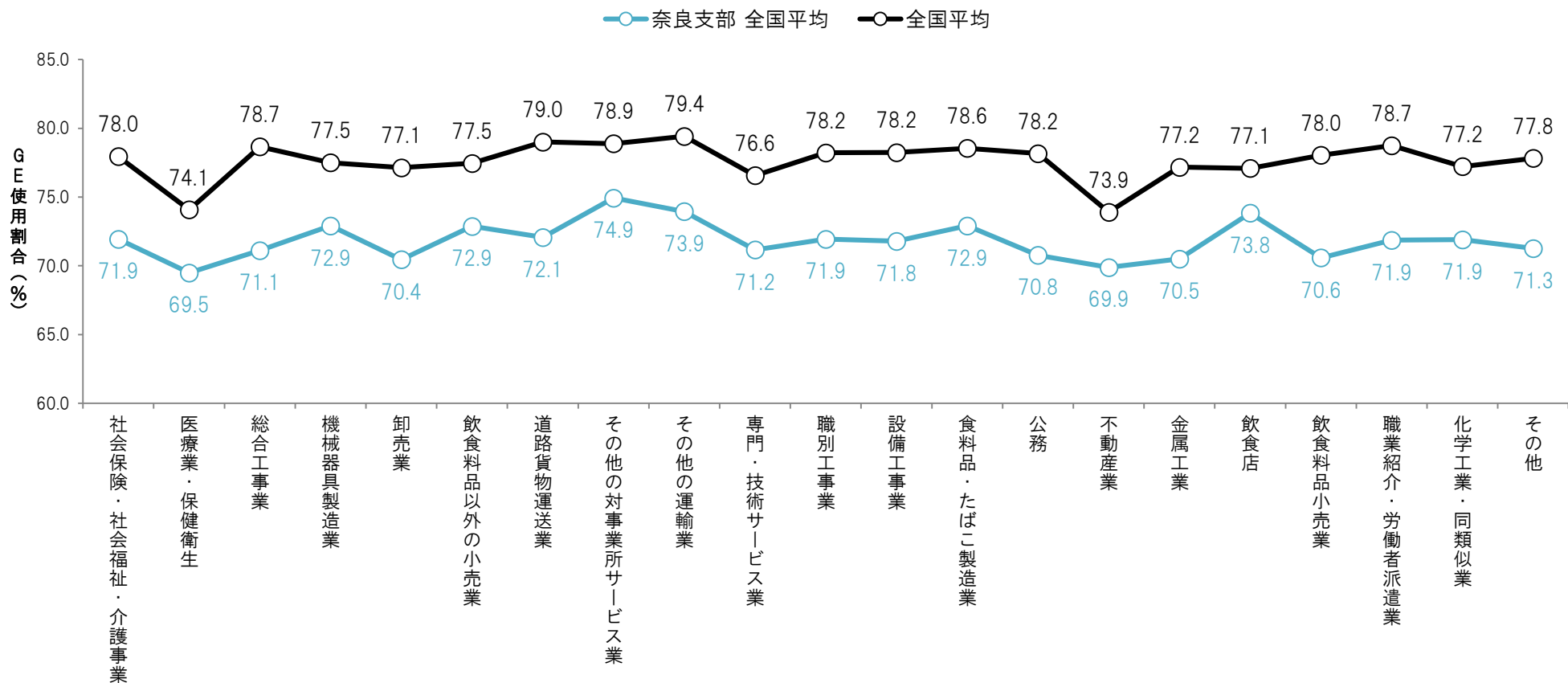
影響度

-2.10	-0.78	-0.99	-0.50	-0.23	-0.22	-0.34	-0.10	-0.09	-0.71
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

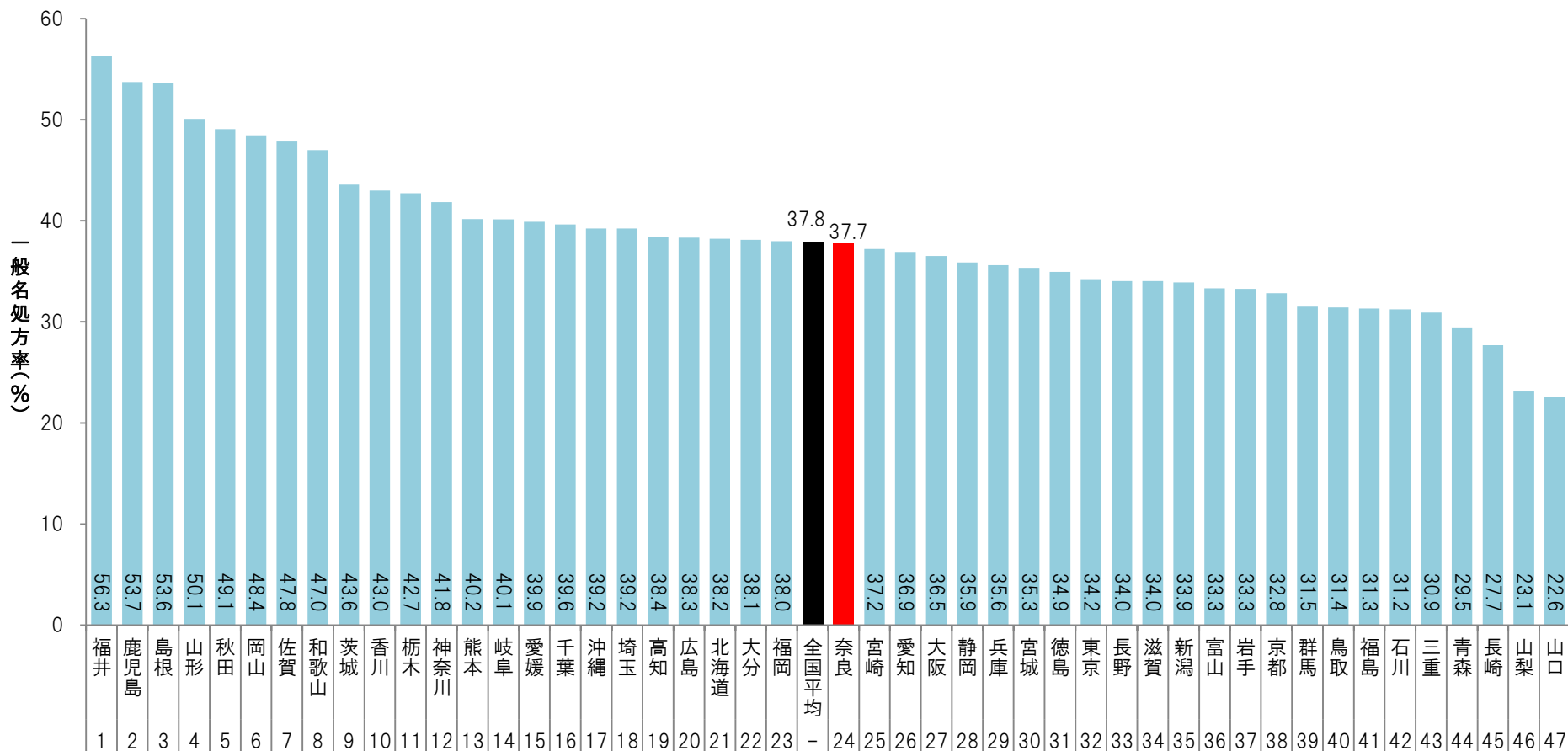
奈良支部／年代別GE使用割合



奈良支部／業種別GE使用割合



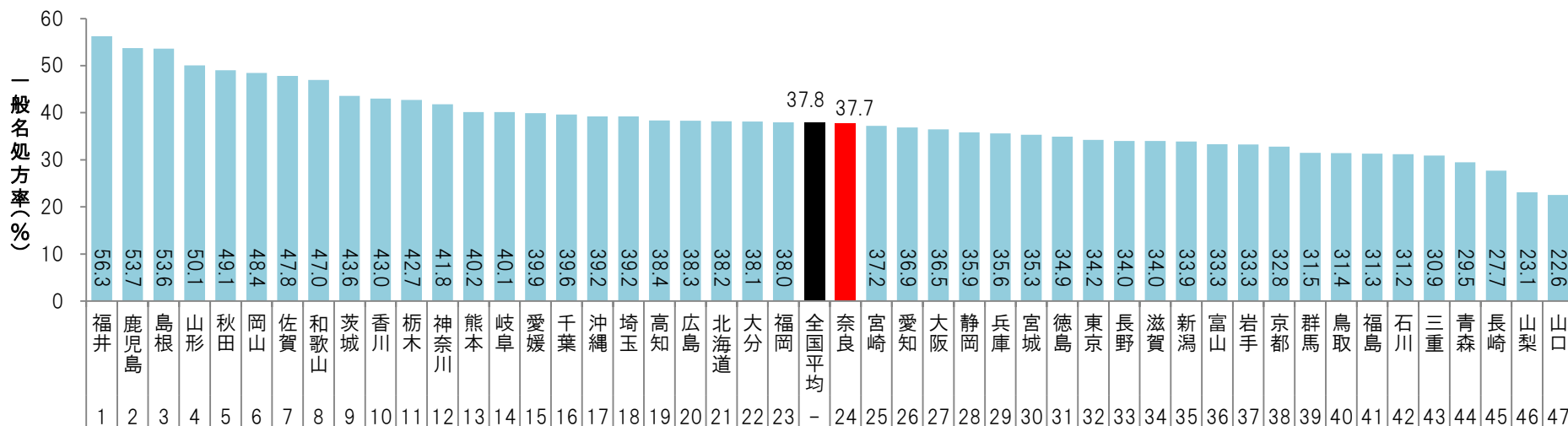
【参考】支部別一般名処方率



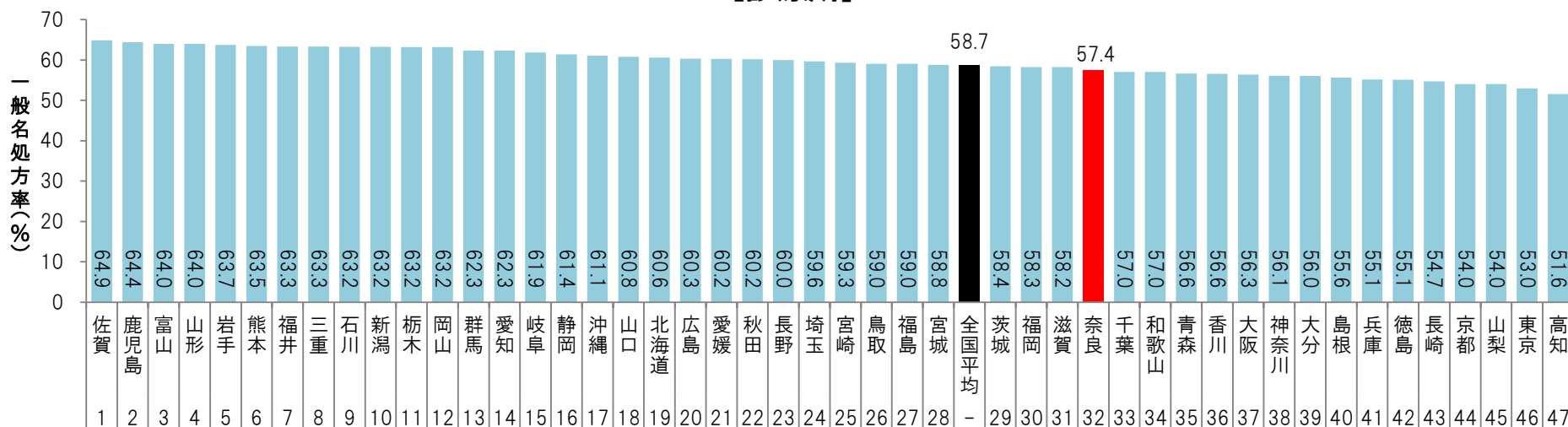
※一般名処方・・・医師が処方せんに記載する医薬品について、メーカーの商品名ではなく、その薬の中に含まれている主たる有効成分の名前(一般名)を記載して処方せんを発行すること。

【参考】支部別一般名処方率

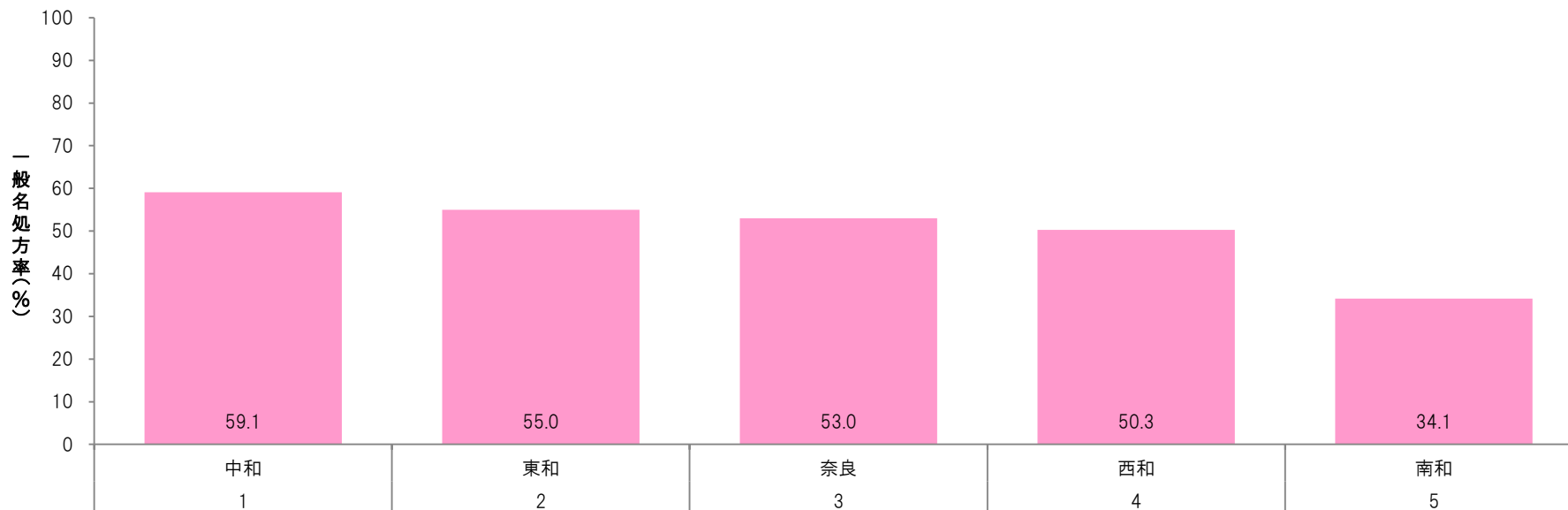
【病院】



【診療所】



【参考】奈良支部／二次医療圏別一般名処方率

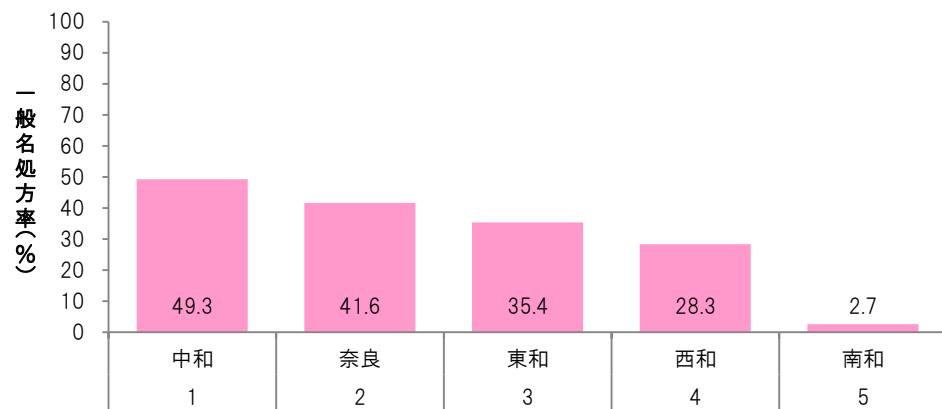


《塗り分け基準》

以上	未満	色
55		緑
50	55	黄
	50	赤

【参考】奈良支部／二次医療圏別一般名処方率

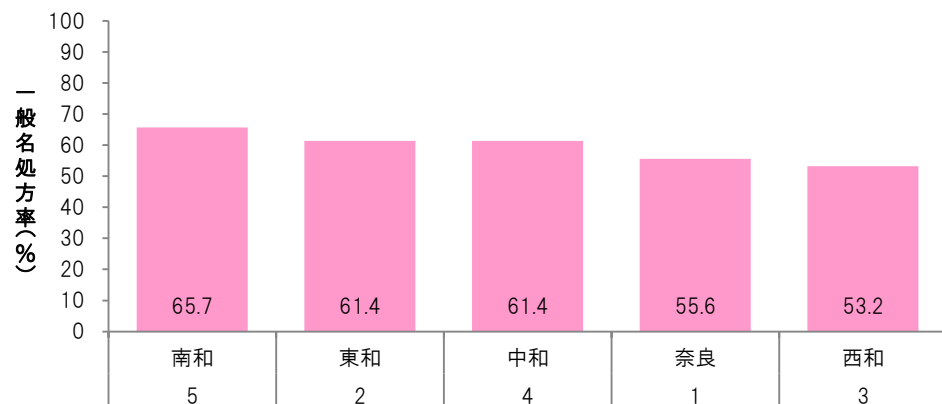
【病院】



《塗り分け基準》

以上	未満	色
45		■
40	45	■
35	40	■
25	35	■
	25	■

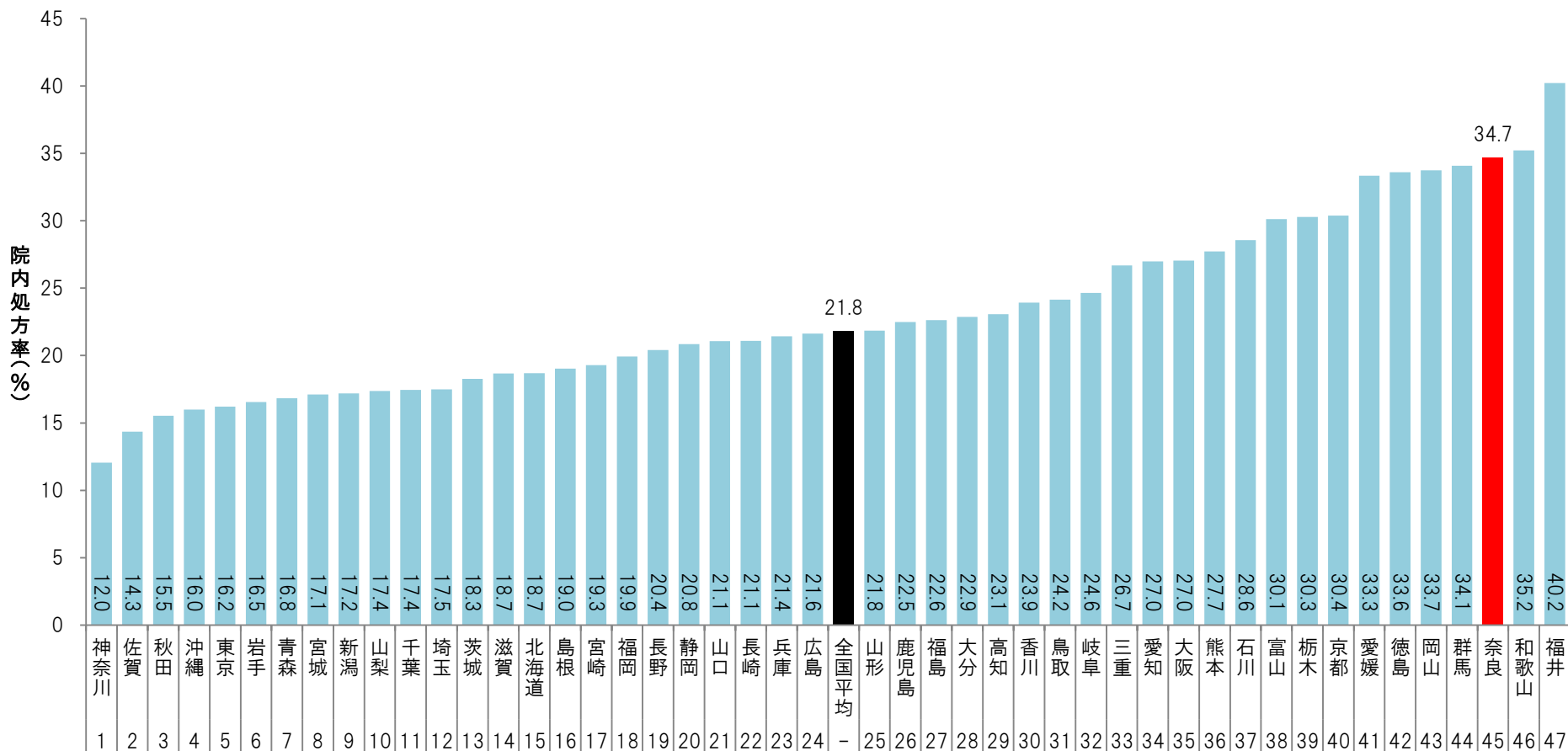
【診療所】



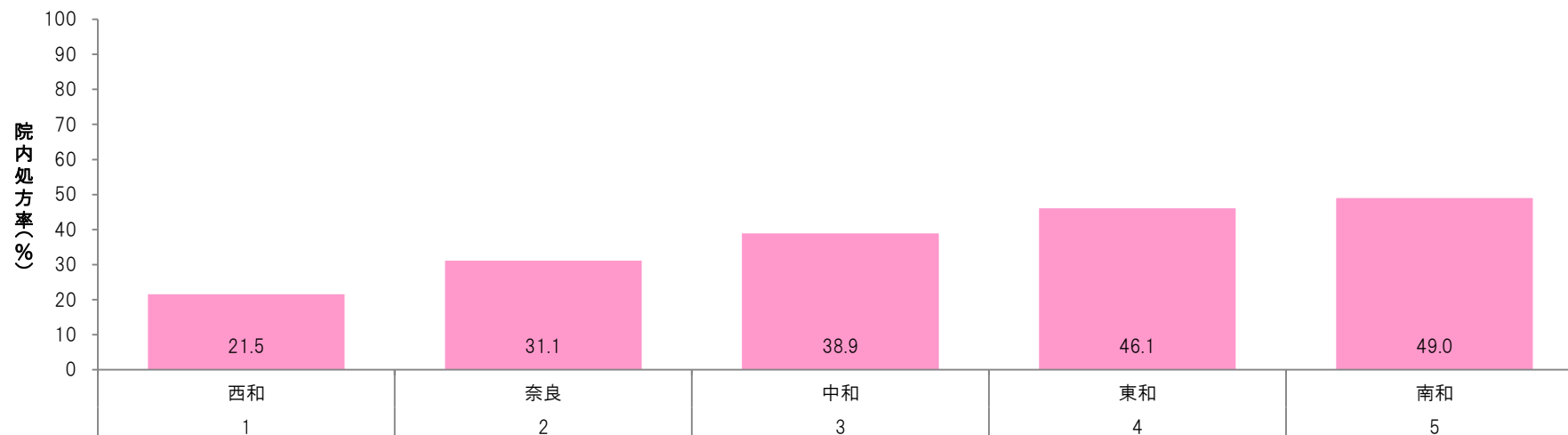
《塗り分け基準》

以上	未満	色
65		■
60	65	■
55	60	■
	55	■

【参考】支部別院内処方率



【参考】奈良支部／二次医療圏別院内処方率

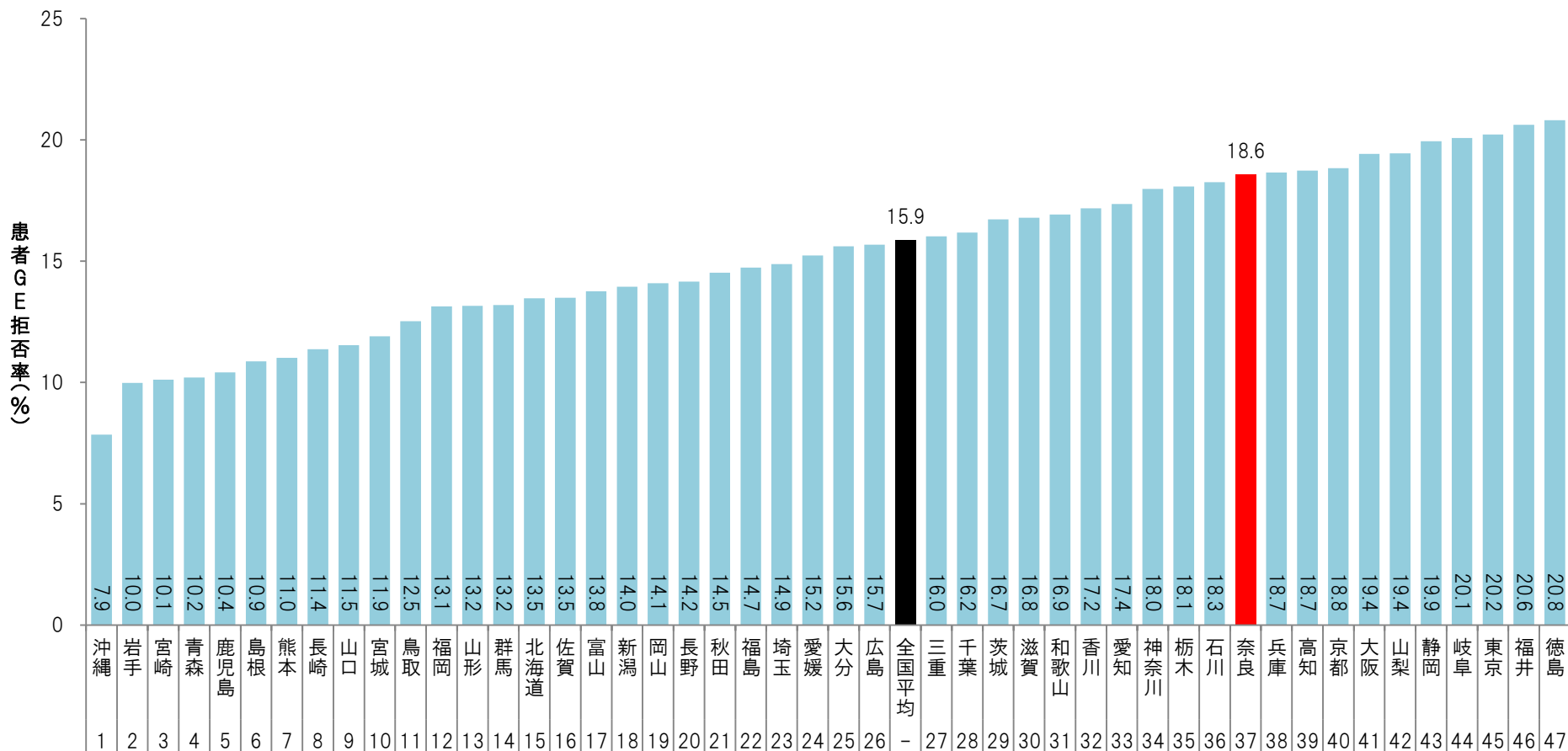


《塗り分け基準》

以上	未満	色
40		■
35	40	■
30	35	■
	30	■

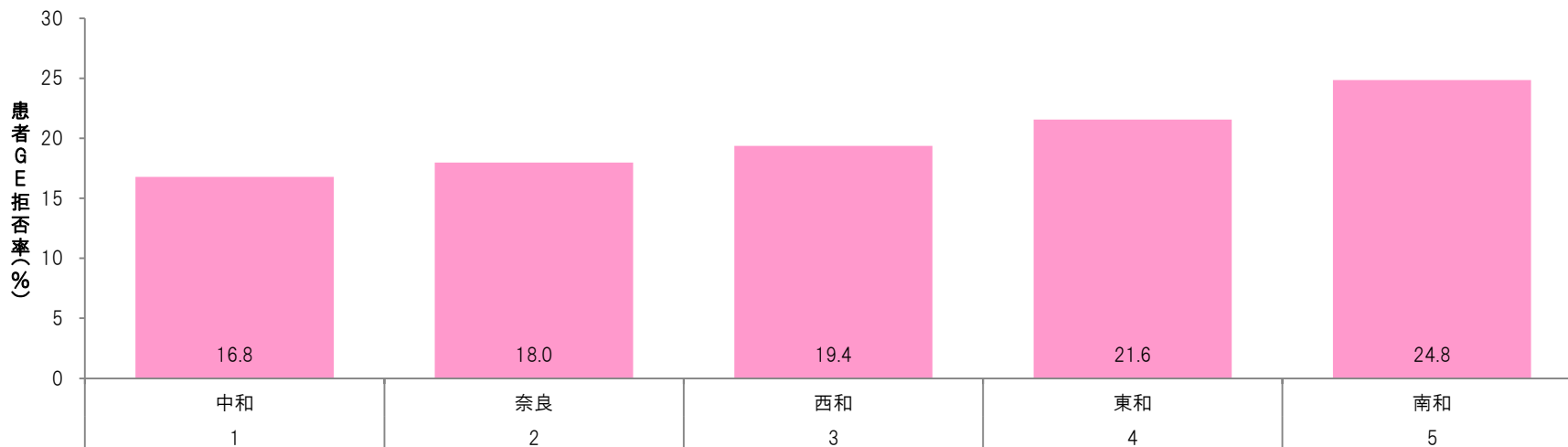
【参考】支部別患者GE拒否率

「調剤レセプトの患者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数」を「一般名処方加算が存在する医科レセプト」で除して算出



【参考】奈良支部／二次医療圏別患者拒否率

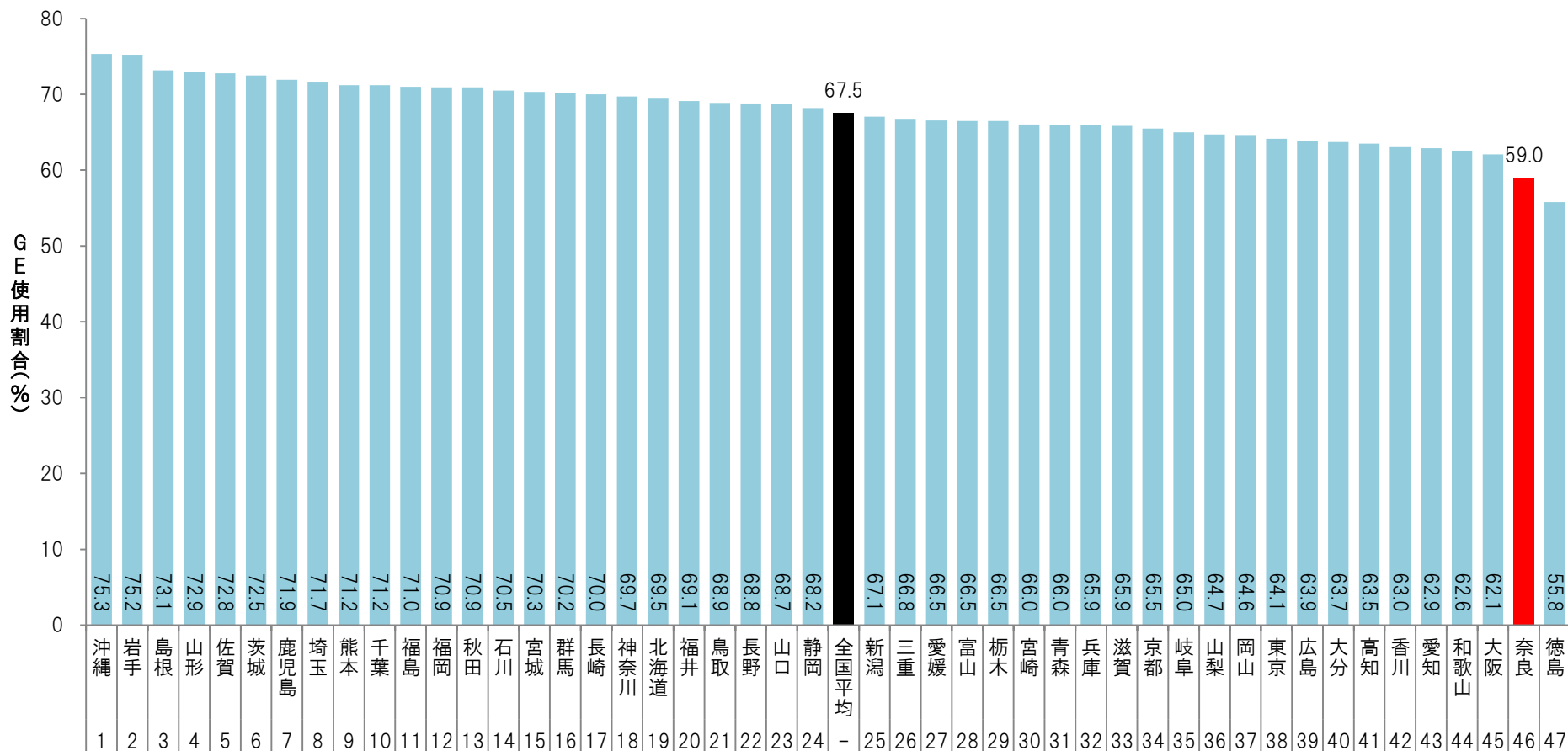
「調剤レセプトの患者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数」を「一般名処方加算が存在する医科レセプト」で除して算出



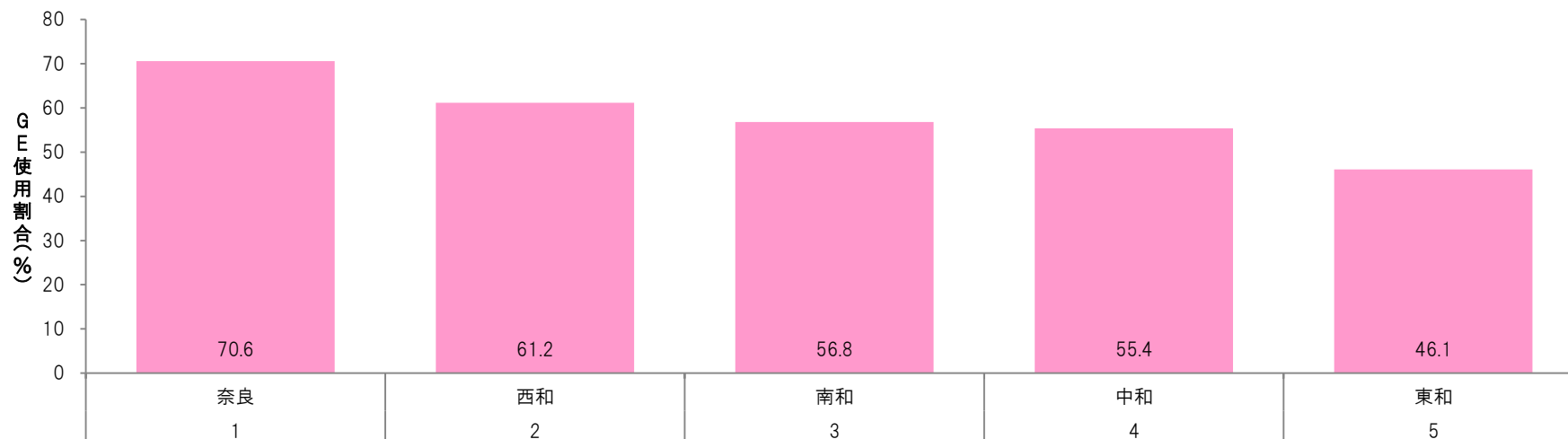
《塗り分け基準》

以上	未満	色
	18	緑
18	20	黄緑
20	22	黄
22		赤

【参考】公費対象者Ge使用割合



【参考】公費対象者Ge使用割合



《塗り分け基準》

以上	未満	色
70		■ (Dark Green)
60	70	■ (Light Green)
50	60	■ (Yellow)
50		■ (Red)